

第1回 理事会

日時：令和5年4月24日(月)13:00~16:40

場所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、清水副会長、北田副会長、末永常務理事、稲垣、大津、小俣、笠、佐々木、竹村、徳永、西山、長谷川(淳)、長谷川(信)、平野、升元、三田村、三好、和田各理事、野村、緒方各監事

欠席者：池見、太田、大谷、林、船山、村上各理事
(理事25名中19名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和5年3月20日開催の令和4年度第12回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長より昨年度の会員数が3月31日時点で1,883名であったことが報告されるとともに、今年度の入会の希望者について説明があった。審議の結果、正会員28名、学生会員2名、国際会員2名の入会を承認した。
- ・事務局長より4月24日時点における会員状況について説明があり、正会員1,800名、学生会員47名、名誉会員65名となり、総数は1,912名であることを確認した。
- ・今後も高齢者の退会希望者が増加することが想定されることから、シニア会員制度について検討を加速することを確認した。

2) 委員の新任について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、広報・情報委員会の1名の新任、研究企画委員会の1名の新任、ダイバーシティ推進委員会の1名の新任の合計3名の新任について承認した。

3) 令和5年度定時社員総会の招集と開催方法について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、令和5年度定時社員総会において、オンラインで出席する代議員、当日欠席の代議員は議決権代理行使、議決権行使書面による議決権の行使を行うこと、および定時社員総会の開催方法について承認した。

4) 令和5年度総会資料について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、総会資料案に修正点があれば次回理事会までに指摘することとなった。
- ・アクションプラン2023-2024では、会員減少への対応は総務委員会が所掌することになっていることから、総務委員会において対応策を検討することと

なった。

5) 運営規程の改定について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、研究部会運営規程については記載されている文言(「選任」や「部会委員」等)について、現状で使用されている用語への修正を検討することとし、必要に応じて規則や関連する規程の改定も行うこととなった。
- ・ダイバーシティ推進委員会運営規程の改定について承認した。

6) 令和5-8年度監事候補者の理事会推挙について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、緒方監事を理事会推挙することとした。

7) 令和6年度研究発表会の会場について

- ・担当理事より説明があり、審議の結果、令和6年度研究発表会の会場として、レグザムホール(香川県県民ホール)を2023年10月9日~11日に正式予約することについて承認した。
- ・今後、引き続き会場費の圧縮について検討を行うとともに、ポスターのパネルや備品の借用に関する費用について調査することとなった。

8) IAEG日本支部代表の交代について

- ・担当理事より説明があり、審議の結果、次期IAEG(国際応用地質学会)の日本支部代表を長田会長に交代することについて承認した。

9) 防災学術連携体「関東大震災100年と防災減災科学」への寄稿について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、寄稿文書を提出することを承認した。
- ・提出後の文書の取り扱いについて、学会ホームページで公開することが可能か調査することとなった。

10) 若手交流会(仮称)の開催について

- ・担当理事より説明があり、審議の結果、今年度研究発表会に合わせて若手交流会(仮称)を開催することを承認した。
- ・開催案作成時点では若手交流会(仮称)の対象年齢を35歳以下としているが、IAEGのYEG(Young Engineering Geologist)では対象年齢を40歳以下としていることから、参加資格については、今後検討していくこととなった。

11) その他

- ・担当理事より、フォトコンテスト入選作品の有効活用について提案があり、審議の結果、入選作品の写真を活用したクリアファイルの制作について承認した。
- ・常務理事より、シンポジウムや研究発表会をハイブリッドで開催する際に必要となる機材について説明があり、審議の結果、マイクスピーカーシステムを

購入することを承認した。ただし今年度シンポジウムにおいては会場の東京大学柏キャンパスより同型のマイクスピーカーシステムを借用することとし、使用状況を確認の上、購入することとなった。

3. 本部からの報告事項

1) 収支状況

・事務局長より説明があり、令和4年度は黒字決算となること、令和5年度も黒字予算として組まれたことが確認された。

2) 令和5年度総会・シンポジウムについて

・常務理事より説明があり、今年度総会・シンポジウムでの機器接続のリハーサルを行い、問題なかったことが確認された。

3) 令和4年度顧問会開催報告について

・常務理事より説明があり、3月28日に開催された顧問会の議事内容が確認された。

4) 令和4年度後半執務状況について

・会長より説明があり、会長、副会長、常務理事の執務状況が確認された。

5) 個人情報取り扱いに関する監査について

・常務理事より説明があり、各支部所属理事においては、令和4年度分の「個人情報の取り扱いに関する監査報告書」の提出について確認することとなった。

6) 令和5年度研究発表会について

・常務理事より説明があり、今年度研究発表会会場の利用許可が得られ、料金を支払ったことが確認された。

7) 日本応用地質学会表彰への推薦案件について

・清水副会長より説明があり、次回総務委員会・理事会に、応用地質学教育普及委員会より日本応用地質学会表彰の申請がなされることが紹介された。

8) IAEG年会費の改定について

・担当理事より説明があり、IAEGの年会費の改定に伴い、来年度国際会費の改定に向けた検討が始まったことが確認された。
・改定後に会費が増大する国際会員には、事前に十分に説明がなされるよう、要請があった。

9) 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループ 参加報告について

・会長より説明があり、次回第4回のワーキンググループ開催に向け、学会としての意見を出す必要があれば連絡するよう要請があった。
・ワーキンググループの様子はインターネットで公開されているものの、学会として本件に取り組んでいることについて、会員向けにホームページ等で紹介してはどうかとの意見が出された。

10) 日本学術会議 第三部拡大役員会 第14回理学・工学系学協会連絡協議会出席報告について

・常務理事より説明があり、協議会開催後、今年度の法改正は断念されたことが確認された。

11) 資源・素材学会役員就任について

・常務理事より説明があり、令和5年度新任役員について確認された。

12) 他学協会からの依頼

・常務理事より、物理探査学会「第148回学術講演会」への後援依頼の受諾、ならびに「伊藤科学振興会研究助成公募」、「第14回(令和5(2023)年度)日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦」、2023年度「深田賞」への応募、「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2023 出展者公募」について、それぞれ報告がなされた。

4. 各委員会からの報告事項

1) 総務委員会

・4月19日開催の委員会議事録案が提出された。
・常務理事より、現在の検討事項として、「イベント開催に伴う広報及びCPD申請・登録方法について」の文書の改定について紹介された。当該文書については、総務委員会内に組織されたCPD連絡会を開催し、改定内容を議論することとなった。

2) 国際委員会

・3月9日開催の委員会議事録が提出された。
・担当理事より、現在の検討事項として、IAEG XIV Congress 2023, 第14回ARCなどがあることが紹介された。

3) 研究企画委員会

・3月14日開催の委員会議事録案が提出された。
・担当理事より、今年度より新たに立ち上げられた「応用地質における岩盤力学・透水試験手法に関する研究小委員会」に関連して、研究小委員会の委員長である竹村理事が研究企画委員会に委員として参画すること、先端技術ワークショップについて、昨年度実施のアンケート結果から概ね好評であったこと、今年度のテーマとして「応用地質におけるDX」を検討していることが紹介された。

4) ダイバーシティ推進委員会

・4月5日開催の委員会議事録案が提出された。
・担当理事より、現在の検討事項として、学会活動参加希望アンケートのフォローアップ、今年度シンポジウムがあることが報告された。